市立病院と地域医療機関とのパートナーシップで高度な医療の実現をめざす・

# PARTNERSHIP

病院広報·医療連携誌

vol.35

2021.1

鹿児島市立病院だより





# 機動力のある救急医療や 周産期医療の充実を図る

Q:これからの病院に対する役割 はどのようなものだと考えられてい ますか?

これまで総合周産期母子医療セ ンター長、新生児内科部長として、 周産期医療特に新生児医療に携 わってきました。これからは、臨床 研修センター長、臨床研究支援セン ター長、鹿児島大学大学院医歯学 総合研究科連携講座支援室長、診 療情報管理室長、中央図書室長、 栄養管理部長としての役割も増え、 病院全体のための業務も務め、鹿 児島市立病院が、鹿児島市民、鹿児 島県民のためにより良い医療をでき るように精進したいと思います。

# Q: 先生のこれまでの経験をどの ように病院に生かしていきます

早産例や胎児異常症例は、母体 搬送により搬送されますが、突発的 に出生した早産児や出生後にはじめ て気づかれる疾患の場合は、新生 児搬送が必要となります。平成13年 からは、人工呼吸器を装備した新 生児専用高規格ドクターカー (こうの とり号)を導入し、24時間体制で県 内の新生児搬送が円滑に行われる ようになりました。また、ドクターへ リが導入され、救急科のご協力の 下、ドクターへリによる新生児搬送 が行えるようになり、大隅半島では、 往復4時間ほどかかっていた搬送 が、1時間以内に短縮され、新生児 の予後改善が期待されています。こ

れらの経験を生かした機動力のあ る救急医療や周産期医療の充実に 尽力したいと思います。

# 海外研修も含めたプログラムで 若手の新生児科医養成を

Q: 最後に先牛の所属科である新 生児内科の今後の展望をお聞かせ ください。

先天的な疾患、染色体異常や分 娩時の低酸素による脳障害のため にお家へ帰れないお子さんが増加し てきています。重症心身障害児施設 への転院や在宅看護を進めて行か ないといけないので、現在、重症心 身障害児施設との検討会 (鹿児島 県重症児関連施設連絡会)を開催 することにより連携を強めて、長期 入院児に関して協同で検討していま

す。これらの取り組みにより、長期入 院児の退院、転院が増加してきてお ります。また、県内の訪問看護ス テーションの研修を受け入れて、在 宅医療の充実を推進していく予定で す。

新生児集中治療室 (NICU) の診 療は、24時間体制でありベビーER と言えます。それゆえ、仕事もハード なので、若手医師の希望者も少な く、今後の新生児医療にとっては、 若い人材育成が重要な課題です。こ れまで全国から約550名の研修を受 け入れてきましたが、それらの研修 医は、ほとんどが地元へ帰るため に、鹿児島市立病院で長く診療に 従事しないのが問題でした。近年、 米国カリフォルニア州立大学アーバ

イン校と鹿児島市立病院の間に研 修協定ができましたので、海外での 研修も含めた新生児科専門医を目 指す後期研修プログラムを作り、若 手新生児科医養成に力をいれてい

最後に、これまで の新生児医療は、赤 ちゃんの命を助ける のに精一杯で、その 治療技術の進歩ばか りが注目されていま した。しかしながら、 最近になってその養 育環境や家族への 配慮の重要性が叫ば れる様になってきて います。

21世紀を支えていく子供たちを救 命していくNICUは、更なる高度医 療技術の進歩と養育環境や家族へ の配慮を考える優しさの両輪で進ん でいくものと考えられます。



### 院長コラム

# 新型コロナウイルス感染症(COVID-19)のワクチン開発

前34号から3ヶ月後の現時点で、COVID-19の感染者 数は世界で6.000万人超、日本で約14万人超といずれも3 倍、死者は世界で約142万人、日本で約2,060人といずれ も2倍に増加し、これまでよりも大きな第3波の到来が懸念 されています。鹿児島県でも感染者数は600人を超え、倍 以上に増えています。

COVID-19の収束には、迅速で簡便な測定系、抗ウイル ス薬、ワクチンの3つが必要です。当院でも7月以来、抗原 定量とPCRあわせて約2,800件(550件/月)の検査を実施 し、測定系の問題はかなり改善しました。新規抗ウイルス薬 はまだ開発されていませんが、レムデシビルなど既存薬の 転用が行われています。

3つめのワクチンですが、最近、moderna社(米)および Pfeizer(米)&BioNtech(ドイツ)社が第Ⅲ相臨床試験(中間 解析)の効果をそれぞれ94.5%、95%と公表しました。この modernaの治験は、約30.000人の被験者をプラセボ群 とワクチン群に1:1に割り付け、COVID-19が95人発症し た時点で、90人はプラセボ群、5人はワクチン群であること から、プラセボ群で発症した90人をワクチン群では5人に したという考えから、効果は90人中85人で、85/90=94% と評価しています。Pfeizer&BioNtechの場合は、被験者 約44,000人で、170人発症した時点でプラセボ群162人、

ワクチン群8人で、効果は154/162=95%です。ワクチン 群では、発症者が減っているので、当然重症者の絶対数も 減っています。インフルエンザワクチンはウイルスを不活 化して作りますが、この2つのワクチンはmRNAワクチンで す。この新しい作り方のワクチンは、ウイルスの一部の mRNAをヒトに投与し、体の中で部分的なウイルス蛋白を 発現させて、抗体を誘導しようとするものです。

今回の試験では、ワクチンの効果を発症者数で評価して いますが、評価法としてはかなり原始的です。B型肝炎では ワクチンの効果は、接種後の中和抗体である血液中のHBs 抗体産生で評価します。中和抗体で評価するためには、中 和抗体が存在し、測定できるようになることが必要で、その ためにはCOVID-19の免疫反応が十分解明される必要が あります。この感染症を制御するには、やはり感染症として の全容を明らかにすることが必要で、研究の進展を期待し たいと思います。

(令和2年11月27日)

1 | PARTNERSHIP Vol.35 PARTNERSHIP Vol.35 | 2

# これからの脳卒中診療

時村 洋 脳卒中センター長

### 1 コアPSC施設認定

鹿児島市立病院脳卒中センターより極めて重要なご報告がございます。このたび鹿児島市立病院は日本脳卒中学会より、地域の脳卒中診療の中心となるべく「コアPSC施設」として活動するよう委嘱されました。先ずはこの点についてご説明申し上げます。

2018年12月に脳卒中・循環器病対 策法が制定されて以来、我が国の脳 卒中診療は急速に集約化が進んで います。日本脳卒中学会は、先ず「24 時間365日脳卒中患者を受け入れ、 急性期脳卒中診療担当医師が、患 者搬入後可及的速やかに診療 (rt-PA静注療法を含む)を開始で きる一次脳卒中センター(PSC)」の 認定事業を行い、全国で974施設、 鹿児島県で23施設が認定されまし た。更に日本脳卒中学会はこれらの 認定施設の中から、機械的血栓回収 療法を実施できない施設からの患者を常時受け入れる、PSCの中心となるべき「コア施設」を設定しました。私共鹿児島市立病院は2020年11月1日より、このコアPSC施設として認定されました。現在、県内随一と言える脳血管内治療専門医4名、実施医2名の体制で診療に当たっていますが、これまで以上に脳卒中の地域医療に一層貢献して参ります。

#### 2 SCU增床

脳卒中と言えば鹿児島市立病院、 故時任純孝院長は強烈なリーダー シップにより鹿児島県の脳卒中を一 手に引き受けてこられました。昭和 の時代から鹿児島市立病院の看板と なって来た脳卒中センターですが、こ の度、脳卒中を受け入れる病棟、 Stroke Care Unit (SCU) を3床から 6床に増床しました。

脳卒中診療は近年大きく変わりま

した。昭和中期の頃には脳卒中は動 かすなという時代があり、故佐藤栄 作首相は築地の料亭で倒れた後数 日病院に搬送されることがなかった と伝えられています。その後、脳卒中 は速やかな病院搬送が基本となって 参りましたが、クリッピングや血腫除 去により治療成績をあげていた出血 性脳血管障害に比し、脳梗塞におい ては、詰まったものは仕方がないし、 梗塞は拡大するもの、という治療が 長いこと続きました。そこで2005年 に登場したのがt-PA療法です。詰 まった血管の血栓を溶かし再開通さ せることにより壊死に陥ろうとする脳 組織を救うことができるようになりま した。更にt-PAでは再開通出来ない 血管の詰まりを诵す有効な手段であ るのが機械的血栓回収術です。この t-PA、血栓回収療法により脳梗塞の 予後は革命的に改善しています。

鹿児島市立病院脳卒中センターは 2019年4月より血管内治療専門医で



▲増床されたSCU



▲SCUスタッフ

ある脳卒中内科医2名が加わり、現 在脳神経外科医7名と脳神経内科医 3名の協力体制により理想的な運営 がなされています。その結果、脳梗塞 に対する機械的血栓回収術の件数 はそれ以前と比較し倍増しましたし、 今後更に症例の増加が見込まれるた め、この度SCU病棟を増床するに至 りました。

増床に向けてSCUスタッフの教育、SCUスタッフと脳卒中を受ける 救急センターとの情報交換、薬剤師、 リハビリテーションスタッフの介入、 医師、看護師とのカンファレンスを行うことにより問題点を抽出し充実し たSCU運営を実現するべく始動しま した。

# **3**脳卒中連携WEB カンファレンス

脳卒中の診療は急性期の脳卒中 治療を行うと同時に機能回復を図る ための急性期リハビリテーションを 行い、引き続き神経可塑性の生じや すい時期に回復期リハビリテーショ ンへ移行することが重要になりま す。鹿児島市立病院の急性期脳卒中 患者は年々増え続けていますが、急 性期に特化した診療体制をとってい るため、回復期リハビリテーションの ためには、連携して下さる医療機関 の協力が非常に重要です。従来個別 の転院相談という形をとっていました が、公的医療機関として多くの連携 病院に平等に情報提供を行うこと と、速やかな治療移行により少しで も良好な機能回復を図ることを目的 として2017年10月1日より脳卒中地 域連携カンファレンスを始めました。 これは毎週月曜日に連携をして下さ る医療機関の担当者にお集まりいた だき情報共有をすることにより、ス ムーズな転院を行おうという連携会 議です。これによりカンファレンス開 始前と比較し平均2.5日転院が早くな り本格的なリハビリテーションを行う ことが出来ました。このように顔の見 える良い連携が構築されてきました が、連携して下さる病院の方々に毎 週ご参集いただく負担を軽減するた めに、将来構想としてオンラインカン ファレンスを視野に入れておりまし た。ところがその矢先、コロナウィル ス感染拡大が起こり従来型のカン ファレンスは中止せざるを得なくなっ てしまいました。そこでオンライン会 議の準備を急速に進め、2020年7月 17日より「地域連携オンラインカン ファレンス | を行うに至りました。こ れまでに8回開催(10月19日現在) し、25名の患者を検討しています。カ

ンファレンスの流れは毎週月曜日 朝、脳卒中カンファレンスで転院対 象患者の抽出→退院調整専従看護 師による準備、病棟への連絡、カン ファレンス対象患者リストの作成→ 参加申請施設へ情報提供(カンファ レンス対象患者リスト送信)→ ZOOMによるオンラインカンファレン ス実施→カンファレンス終了後、連携 施設での受け入れ可能な状況の確認 →転院調整開始指示後、患者·家族 の思いを再度確認し、転院施設との 調整開始となります。このカンファレ ンスは、1) 退院支援促進、2) 連携 施設・スタッフの負担軽減、3) 感染 予防対策の実現、4) 時代に即した ICTを活用した連携、などが特徴と 考えられます。まだ始まったばかりの 脳卒中WEBカンファレンスですが、 今後皆様からのご意見を取り入れつ つ、更に有用な会議を実践できるよ う運営して参ります。

#### ときむら・ひろし

日本脳神経外科学会専門医・代議員・指導医日本脳卒中学会専門医・代議員・医学博士日本脳卒中の外科学会技術指導医日本脳神経外科コングレス Congress of Neurological Surgeons会員日本臨床神経生理学会認定医・代議員日本リハビリテーション医学会日本整容脳神経外科研究会幹事日本脳腫瘍の外科学会代議員



3 | PARTNERSHIP Vol.35 | 4

# 外来化学療法室を22床に拡充

**児玉 朋子** 腫瘍内科

# 拡充により更に大きくなる 外来治療のメリット

今年度4月より腫瘍内科に勤務さ せて頂いております。

この度10月より外来化学療法室が 拡充となりました。

普段、担当の方の外来化学療法の 際などに訪室していたのですが、10 月からは化学療法室内の診察室も増 えたことで外来化学療法室に居るこ とが多くなりましたので、まだ勤務し て8ヶ月程度ではありますが、今回 は私より外来化学療法室拡充につい てご紹介させて頂くこととなりまし た。

外来化学療法室は当院で外来化 学療法を行っています全ての科の患 者さんが利用されています。

4月の配属時は、ベッド数が15床 でしたが、患者さんの人数も増加傾 向になっていることもあり、10月より 約1.5倍の22床となり、それに伴い部 屋自体も拡大され、スタッフも増員と なりました。

そのため、一度に抗癌剤点滴を受 けられる患者さんの数が多くなるこ とで、待ち時間の短縮につながり、治 療に来院する際の時間的な負担が 軽減されていると思われます。

化学療法は患者さんそれぞれで 治療の目的が違い、点滴を受けに来 られる間隔もそれぞれです。

治療内容によってはどうしても入 院で施行しなければならない化学療 法もありますが、外来で治療できる 方は外来通院にて治療を継続されて います。

外来化学療法のメリットとしては、 普段の生活をしながら治療を継続で きることですので、仕事をしながら治 療を継続されている方もたくさんい らっしゃいます。また現在のcovid-19 蔓延のため入院治療ではご家族と面 会ができませんが、外来治療でした らご家族と過ごしなら治療ができま

今後も化学療法が必要な患者さん が多くなることが予想されますし、ま た上記理由から外来化学療法室の 重要性がより高くなってくると思われ ます。

こういった普段の生活を継続しな がら治療を継続するという点では、よ り時間的負担の軽減は重要となりま すので、今回の化学療法室拡充が患 者さんのメリットとして感じてもらえ ていれば良いなと思います。

# 多くのスタッフとの連携で より安全な治療に努める

ただ、外来化学療法となると副作 用のマネージメントが心配になりま







す。

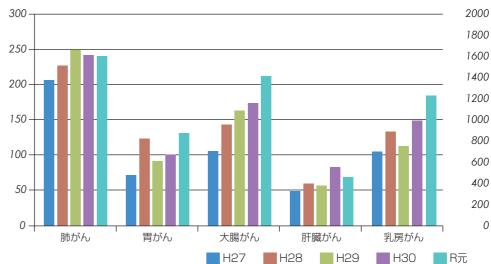
当院の外来化学療 法室には、医師、ク ラーク、専門看護師、 専門薬剤師、また緩 和ケアスタッフも近く に在室していることか ら、治療中に多くのス タッフと関わって頂く ことで、患者さんそれ ぞれの現状把握をス タッフ間で共有するこ とができ、症状に応じ た対応をするようにし ています。また患者さ ん自身、その家族も副

作用や処方薬について質問すること や情報提供を受けることができる環 境だと思います。私も実際に診察室 だけでは患者さんに伝えられる情報 に限界があることが多く、よく様々な スタッフに患者さんへの追加の説明 を依頼しています。点滴中に患者さ んがスタッフにお話ししたことからわ



かることも多々ありますし、血液検査 結果を待って頂いている間に緩和ケ アスタッフが聞き取りをし、その情報 を提供してくれることもあります。ま た治療前日、当日朝にも全スタッフが それぞれの方の治療状況を確認、必 要に応じて相談することで当日より 安全に治療ができるように努めてい

今回、外来化学療法室拡充により 環境面での整備が進んだことをメ リットとできるように、より一層、患者 さんそれぞれのニーズにあった治療 ができるように、スタッフそれぞれも 日々精進していますので、これからも どうぞよろしくお願いいたします。



1800 1600 1400 1200 1000 800 その他がん

市立病院の新規がん登録患者数の推移ー全領域のがんに対応

中澤 潤一 なかざわ・じゅんいち 日本内科学会認定医

日本消化器病学会専門医 がん治療認定医 日本臨床腫瘍学会 がん薬物療法専門医

川平 正博 かわひら・まさひろ 日本内科学会認定医 日本消化器病学会

日本臨床腫瘍学会 がん薬物療法専門医 日本がんサポーティブケア学会 日木経和医療学会



児玉 朋子 こだま・ともこ

日本内科学会認定医 日本消化器病学会 日本消化器内視鏡学会 日本臨床腫瘍学会



5 | PARTNERSHIP Vol.35

# 全自動遺伝子解析装置の導入

# 新型コロナやインフルエンザウイルスなどを同時にPCR検査

原口 政臣 臨床検査技術科 技師長

# 測定操作がパッケージ化され、 短期の練習で習得が可能

臨床検査部細菌検査室に全自動遺 伝子検査装置FilmArrayを導入しました。

従来の遺伝子増幅検査は、抽出工程、増幅・解析工程と2工程が必要であり、それぞれで前処理作業を必要としているため、検査時間が2-3時間程必要でしたが、今回導入したFilmArrayは、生体試料より核酸抽出及びPCR法を測定原理としている最新の機器で、測定結果までの一連の操作(抽出・増幅・解析)を全自動で行い1時間程度で結果がでます。

主に新型コロナウイルスの検査に用いることになりますが、これまでのPCR装置と大きく異なるのは、一度の検査で新型コロナウイルス以外にもインフルエンザウイルス、パラインフルエンザウイルス、季節性コロナウイルス、ヒトターユーモウイルス、アデノウイルス、RSウイルス、ヒトライノウイルス/エンテロウイルス、マイコプラズマ・ニューモニエ、クラミジア・ニューモニエ、百日咳菌も検出可能である点で

す。

これから迎える冬季の呼吸器感染症、とくにインフルエンザウイルスと新型コロナは症状が似ていることもあり、その判別にFilmArrayはとても有用です。(検査試料は鼻咽頭拭いウイルス輸送培地に限る)

従来の遺伝子検査は操作が煩雑で、ある程度の熟練が必要とされていましたが、本機器の測定操作はパッケージ化され数ステップで測定できるため、特殊な手技を習得せずとも、検査可能であり臨床検査技師であれば短期の練習で操作可能です。

## 様々な方面で迅速な検査と 報告ができる機器として期待

FilmArrayは、PCR法を原理としたマルチプレックスPCRを用いています。 試料中の様々なゲノム領域をnested multiplex polymerase chain reaction(nmPCR)法により増幅し、その 増幅産物が描く融解曲線をパターン分 析し微生物を特定します。

#### ① 細胞粉砕・核酸精製

物理的に微生物の細胞壁、細胞膜を

破砕し、核酸を放出させる。放出した核酸を 磁性ビーズを用い精 製・核酸抽出をする。

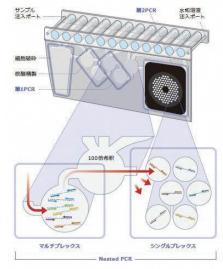
# ② 核酸増幅反応nmPCRではPCRの2つのステージを利用する。(右図)

まず、サンプル中の標 的鎖型に対するマル チプレックスPCR(第 1)を実行。次に第1の PCRで産生されたDNAの複製をさらに 増幅するため、シングルプレックス(第2) を実行。

#### ③ 高解像度融解曲線分析

PCR反応ではDNA結合色素 LCGreen®Plus(LCG)を使用。LCGは、 DNA複製作成中に取り込まれ2本鎖 DNAと結合すると、LCGが蛍光を発し 検出される。その後に高温度に上昇させると今度は、増幅産物が融解しLCG が放出され蛍光強度の減少が検出可能となる。その増幅産物の融解温度は 既知であり、また一定であることから病 原体固有のPCR産物が、標的から複製されていることが認識可能となる。

最後に、2020年11月時点で、呼吸器 感染症用のパネル以外に、血液培養パネルやまだ保険適応外であるが、髄膜 炎・脳炎パネルも発売されており、様々な 方面で迅速な検査・報告のできる機器と して期待されています。



(上図:https://www.biomerieux.co.jp/ より引用)



▲今回導入した全自動遺伝子解析装置

# 看護師の特定行為研修センター設置に向けて

# 地域に貢献できる人材の育成

~看護師の役割拡大、医師の業務負担軽減~

福島 寿美代 副総看護師長

# 県内3施設目の研修センター として2021年4月に旗揚げ

厚労省が後押ししている「看護師 の特定行為研修制度」は、2015年10 月に始まりましたが、いよいよ当院も 県内3施設目の研修センターとして旗 揚げすることとなりました。先進医療 に伴う専門性の向上を念頭に、高度 急性期病院で勤務する看護師の役割 拡大、医師の業務負担軽減のために は、特定行為は大変有利なスキルで す

病院長をはじめとする幹部会議の 承認を得た後、まず、集中治療室診 療部長、副総看護師長、集中ケア認 定看護師と事務職員4名で鹿児島大 学病院と浜松医科大学病院を視察し ました。同年、集中ケア認定看護師 を含む2名が、「6区分15行為」を修 了し、特定看護師が誕生しています。 また、多数の講師陣と事務局に協力 を頂き、2021年4月の開設に向けて 書類作成・学習環境の整備等を進め ているところです。

期待される効果として、特定看護 師が患者さんの状態を見極めること



▲他職種にも分かるように、「特定看護師」のついたユニ フォームを着用して活動しています



特定看護師:神宮かおり

指導医:仲村将高

特定看護師:道川内巧

で迅速な対応が可能となります。通 常、容態に変化が生じた場合、医師 へ報告し、具体的な指示を得て処置 を行いますが、特定看護師の場合は 手順書に基づいて処置するため、"指 示を待つことなく迅速に対応"できま す。急性期の医療現場では、フィジカ ルアセスメントの視点で急変の早期 認識と早期介入、さらなる重症化回 避・回復につなげられると期待されて います。

# 治療と生活の両面から支援の 促進に貢献できる人材を育成

また、急性期医療から引き継ぐ在 宅医療の現場では、初期からの適切 な医療行為の行使により、不必要な 入院が避けられる可能性があると言 われています。「治療」と「生活」の両 面からの支援の促進に貢献できる人 材育成が急務とされています。

現在、安全管理体制を整備し、2

名の特定看護師が救急部門に所属し ながら、手順書に基づき、動脈血液 ガス分析・人工呼吸器からの離脱や 鎮静剤調整などの特定行為を実践し ています。初年度は院内研修生を対 象としますが、2022年度以降は創傷 管理領域の特定看護師を育成し、地 域で活躍する院外研修生を募集する 予定です。

今後、地域と施設間の連携に対す るリーダーシップへの期待や、組織内 における医療者間のタスクシフティン グ・タスクシェアリングの拡大に寄与 できる特定看護師の育成を目指して います。さらに、患者さんに身近な存 在である看護師が、豊かな看護の視 点でタイムリーに診療の補助を実践 し、専門職として安全な医療ケア、看 護サービスの質の維持・向上に貢献 していきたいと考えております。

# 市立病院×かかりつけ医「鹿児島医療連携」最前線

**鹿児島市立病院では、地域の医療機関(かかりつけ医など)と相互に円滑な連携を はかりながら、患者さんが適切な医療を受けられるよう積極的に取り組んでいます。** 

## CASE 01



## 皮膚科同士だけではなく、 科を越えた連携を実施中

馬場 現在、手術や入院が必要な場合 や、CTやレントゲンなどの検査が必要 な場合に、当院と連携していますよね。 中でも乾癬の患者さんは、月に一人の ペースで連携していますね。

猿渡 そうですね。「そもそも注射を 患者さんに打てるのか?副作用はでな いか?」などの検査を貴院にしてもら い、可能な状態ならば当院で注射し、そ してまた貴院で定期検査を行ってもら うという流れですね。

馬場 そういえば乾癬の生物学的製剤 の認可は、当院よりも貴院の方が早 かったですよね。

猿渡 はい。その認可に関しても、「近 くの呼吸器内科とバックアップがとれ ること」が条件だったので、貴院の呼吸 器内科の東元先生と連携させて頂いて



います。各患者 さんのこれまで の検診結果を 独自の情報ファ イルで共有して います。

## 目指す医療の実現に向けて 今後もさらなる連携を

馬場 そういった情報共有ができる と、連携もスムーズにとれますよね。

猿渡 電子化すると個人情報の問題な ども出てきますが、今後、地域での医 療連携には必要になってくると思いま ਰ

馬場 ところで猿渡先生は、学会で講 演をされたり論文を書かれたりとご活 躍ですね。なかなか開業医で書かれる 先生は少ないですよね。

猿渡 そうですね。私の目指す病院像 というのが、病気の原因をしっかりとつ きとめる大学病院の良さと、患者さん が受診しやすい民間病院の良さを組み 合わせた病院なんです。そして患者さ んが薬に頼らず、最終的に病院にも通

わない、つまり 完治させること がベストだと 思っています。

馬場 猿渡先生 は私の最初の指 導医でもあり、 10数年経った今

でもとても頼りになる先輩です。これか らもよろしくお願いします。

猿渡 ありがとうございます。病院も 近所ですし、今後も連携をしっかりとっ て、鹿児島の患者さんをともに支えて いきましょう。



診療科日 皮膚科

■住所/鹿児島市 L荒田町23-8

■TEL/099-800-6604 ■URL/https://saruwatari-clinic.com

■駐車場/8台(ハイルーフ可) ■アクセス/鹿児島市立病院電停から徒歩2分 鹿児島中央東□から市電10分+徒歩2分、徒歩13分。 郭通バス停から徒歩6分

※学会等で受付時間、休診日に変更がある場合がありますので 診療案内カレンダー、WEB受付のページでご確認ください。



15:00~19:00

# CASE 02

医 医



### 大きく2種類ある、 一般歯科と市立病院の連携

平原 現在、鹿児島市内の一般歯科と 当院の連携には、大きく2つの流れがあ ります。1つは、がんや重度の歯性感染 症など高次の歯科医療が必要な場合 に、一般歯科から当院に依頼してくる ケースです。

下田平 そうですね。現在、鹿児島市で 歯科医師会の会員になっているのはお よそ360人です。これらの会員と貴院 の連携がスムーズにいくよう、あらかじ め中継ぎをしておくのも、私たち歯科医 師会の役割です。

平原 いつもお世話になっています。 話は戻りますが、がんの場合は患者さ んも自覚症状がないケースが多く、た またま一般歯科の治療で見つかること も多いです。日頃から定期検診などを 受診することの大切さが、これでも分か

りますね。

下田平 はい。 私も会長に就い て4年目になり ますが、歯科健 康講座をはじ め、さまざまな 活動をしていま

す。今後も一般歯科と貴院の連携を強 化しながら、市民のみなさんの歯と口 の健康を守っていくお手伝いをしてい きたいです。

# 歯科同士だけではなく、 医科と歯科の連携も大切

平原 一般歯科と当院における連携の2 つ目は全身疾患があるケースです。当 院で手術を受けたり糖尿病や心疾患、 がんの化学療法などの治療を受けたり する患者さんは、治療がスムーズに行 えるよう、まず口腔ケアを先に受けてお くことが望ましいです。その際は私たち から一般歯科へ依頼することになりま

下田平 こちらは先ほどの連携とは逆 の流れになりますね。先に口腔ケアをす ることで、元々の全身疾患の入院日数 もあります。ま た、口腔から全 身の疾患につ ながることもあ るので、歯科同 士だけではな く、医科と歯科



の相互の連携も大切です。

平原 下田平先生は、今後の医療連携 をさらによくするために、どのようなこ とが必要だとお考えですか?

下田平 夜間の救急への対応がもっと スムーズになるといいですよね。貴院も 少人数での対応でお忙しいと思います が、これからも共に鹿児島の歯科を支 えていきましょう。



公益社団法人 鹿児島市歯科医師会

- ■住所/鹿児島市照国町13番15号
- 鹿児島県歯科医師会館4階 ■TEL/099-222-0574
- ■URL/http://www.yoiha-kagoshima.or.jp/ ■アクセス/市雷高目馬場駅より徒歩5分





9 | PARTNERSHIP Vol.35 PARTNERSHIP Vol.35 | 10



7階南病棟スタッフ(左より渡邊、谷村、桶谷、指宿、四元、春田、堀之内、伊瀬知)

編集後記

新型コロナウイルス感染拡大が止まりません。今回も院長コラムと検査室から報告です。インタビューシリーズでは新生児内科の分 野において全国区でご活躍の茨先生が紹介されています。特集記事として脳卒中センターの増床、外来化学療法室の拡充を取り上 げていただきました。更なる診療の充実を期待します。トピックスの一つとして注目度の高い、看護師特定行為研修センター設置に 向けての取り組みが紹介されています。医療連携最前線としては、皮膚科、歯科・歯科□腔外科を取り上げました。コロナに負けな いよう、今年もよろしくお願いします。

